

Newsletter

No.4 2022年11月発行

日本糖尿病教育・看護学会 国際交流委員会

学会員の皆様

こんにちは、国際交流委員会です。ニュースレター第4号をお届けいたします。

国際交流委員会は9月より新しい委員を迎え、新体制でスタートしました。これまでと同様、皆様の糖尿病看護の知識や技術の向上のために国際的な観点より情報発信していきたいと思っております。

去る9月18日(日)に第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会において、国際シンポジウムを開催いたしました。アジア各国・地域よりシンポジストをお迎えし、糖尿病看護を文化的側面より捉えることで、日本の文化を改めて考える良い機会となりました。多くの方々と共有し、アジア各国・地域の糖尿病看護の発展の一助になればと思い、ご報告させていただきます。

■■■今回のトピックス■■■

1. 国際交流委員会 活動報告

1. 国際交流委員会 活動報告

第27回学術集会において、国際シンポジウム「アジア各国・地域における食文化と食事療法の実践」を行い、インドネシア、中華人民共和国、タイ王国の講師より、各国の食文化と食事療法支援についてご講演いただきました。当日は現地・オンライン合わせて200名以上の方々にご参加いただき、各国が抱える課題やその文化的背景について議論が交わされ、文化に沿った糖尿病療養支援が今後の課題として見出されました。

シンポジウムでは、食文化と食事療法支援の繋がりについて西垣前委員より紹介がありました。IDFは“個人的および文化的嗜好、ヘルスリテラシー、健康的な食品へのアクセス、行動を変える意欲と能力、行動変容を阻害する要因に基づいて個人の栄養ニーズに対応すること”を成人糖尿病患者に対する栄養療法の目標に掲げています。先行研究でも、エスニックマイノリティの文化的特徴に基づいた健康教育は通常の健康教育よりもHbA1cを低下させる効果が高いことが報告されています。以上より、文化を考慮した食事支援が重要であることが示唆されました。

【引用文献】

American Diabetes Association Professional Practice Committee; 5. Facilitating Behavior Change and Well-being to Improve Health Outcomes: Standards of Medical Care in Diabetes—2022. *Diabetes Care*. 2022; 45 (Supplement_1): S60–S82. [doi:10.2337/dc22-S005](https://doi.org/10.2337/dc22-S005)

Cannings-John R, Hawthorne K. Culturally appropriate health education for people in ethnic minority groups with type 2 diabetes mellitus. *Cochrane Database Syst Rev*. 2014;(9):CD006424. doi: 10.1002/14651858.CD006424.pub3.



西垣前委員の講演の様子



シンポジストと会場との交流の様子

オンライン画面:中央下 シンポジスト Yun Jia(中国)
 右上 シンポジスト AsisArdianSusanto(インドネシア)
 写真右下:座長 右側 吉田前委員 中央 谷本委員長 左側 通訳 劉委員

【アンケート結果】

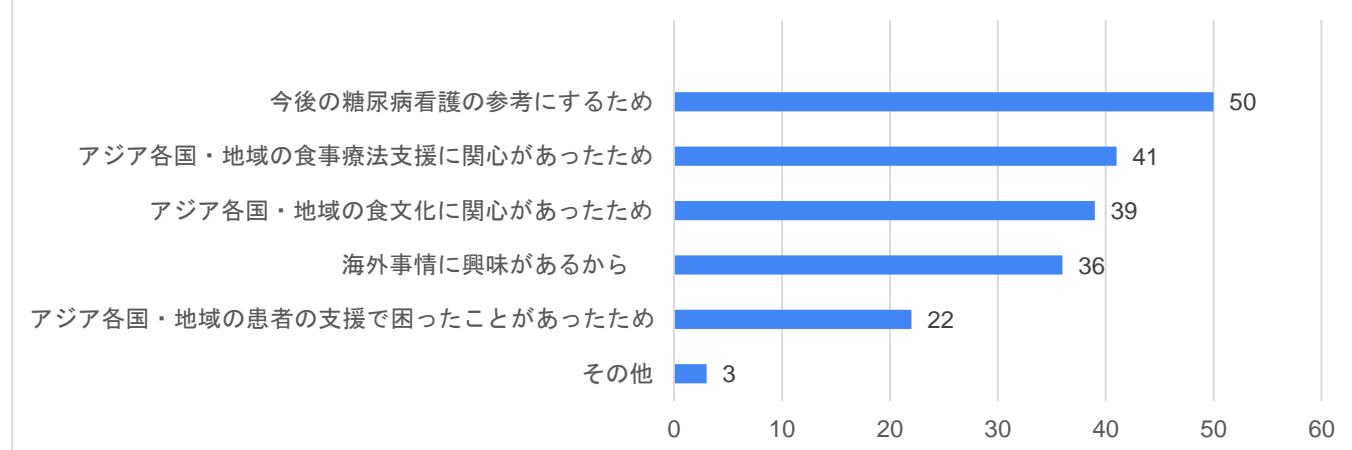
国際シンポジウムに関するWEBによるアンケートを行いました。回答していただいた方は、101名でした。回答にご協力いただき、ありがとうございました。

参加した理由(複数回答)は、「今後の糖尿病看護の参考にするため」が最も多く 50名(49.5%)、次に多かったのは「アジア各国・地域の食事療法支援に関心があったため」が 41名(40.6%)でした。さらに、参加理由の中に「アジア各国・地域の患者の支援で困ったことがあったため」が 22名(21.8%)であり、アジア各国・地域の文化を持つ患者への支援で困っている現状があることがわかりました。

今後、開催してほしいテーマとして、「海外の医療保健制度を含めた看護医療」「海外の糖尿病患者の日常生活」「在留外国人糖尿病患者へのケアの課題や、実際の取り組みについて」「海外のチーム医療」「糖尿病治療の状況」「ADCES*との連携、アジア版ADCES*との連携」などが寄せられました。

お寄せいただいたご意見を踏まえて、国際的な観点より糖尿病看護の発展に寄与できるよう、国際的活動を含めて情報共有してまいりたいと思います。※ADCES AADEから名称変更となっております。

あなたがシンポジウムに参加した理由について教えてください。 (複数回答)



ここまでお読みいただき、ありがとうございます！

今回は、国際交流委員会の活動報告をいたしました。アジア各国・地域の文化を踏まえた支援について考える機会となりました。皆様は、いかがだったでしょうか。

次回のニュースレター発刊は、2023年5月頃を予定しております。次回も皆様の日ごろの実践にお役に立てることがきる情報を発信したいと思います。どうぞよろしく申し上げます！

第13期国際交流委員会 ニュースレター担当者

山口裕子 餘目千史